

## 研究・調査報告書

報告書番号 355	担当 滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
The role of drinking in suicidal ideation : analyses of Project MATCH data 自殺念慮と飲酒の関与 : MATCH 研究の解析	
執筆者	
Conner KR, LiY, MeldrumS, Duberstein PR、Conwell Y	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Student Alcohol.:2003.64(3):402-408	
キーワード	
自殺念慮、アルコール摂取量、アルコール摂取頻度	
要 旨	
<p>(目的) 自殺念慮とアルコール一日摂取量、アルコール摂取頻度の関係について治療中のアルコール中毒患者において経時的に評価する。(方法) MATCH 研究 (多施設アルコール中毒患者精神、社会療法研究) に参加しているアルコール依存患者 (男性 1 1 8 7 名、女性 3 7 4 名) を対象とした。多変量解析 (繰り返し測定 of generalized estimating equation 法) を用いて、研究開始時、3 ヶ月後、9 ヶ月後、1 5 ヶ月後の自殺念慮との関係性を評価した。解析は性別により層別化され、抑うつ状態、アルコール中毒の重症度を調整した。</p> <p>(結果) 自殺念慮は治療開始時、男女ともに高頻度で認められた (女性 1 5 . 5 %、男性 9 . 9 %)。経過観察中には最低でも女性 3 . 6 %、男性 4 . 2 % に認められた。自殺念慮には性別による傾向が認められた。女性ではアルコール摂取量と自殺念慮の相関が認められたが、暴飲しない症例でもアルコール摂取頻度の多いものでは自殺念慮と相関が認められた (量-頻度相互作用)。男性ではアルコール摂取量は自殺念慮と相関が認められたが、アルコール摂取頻度とは相関を認めなかった。反社会的人格障害と自殺念慮の相関が男性に認められたが女性には認められず、男女ともに抑うつ状態と自殺念慮との相関が認められた。</p> <p>(結論) アルコール中毒治療中の患者において自殺念慮は高頻度で認められた。アルコール摂取量は自殺念慮と相関が強く認められ、特に女性では少量飲酒でもアルコール摂取頻度が多ければ相関が認められ、自殺念慮の危険性、および介入の必要性が示唆される。</p>	